

# 令和元年度 第2回 仙台市社会福祉審議会 地域福祉専門分科会 議事録

1 日時 令和2年2月5日(水) 午後1時30分～午後3時25分

2 場所 ショーケー本館ビル3階 会議室CD

## 3 出席者

[地域福祉専門分科会委員] 14名(委員定数17名)

阿部重樹委員・小川登委員・小岩孝子委員・島田福男委員・庄子清典委員・鈴木清隆委員・立岡学委員・釣舟晴一委員・長岡弘晴委員・中田年哉委員・三浦啓伸委員・村山くみ委員・渡邊純一委員・渡邊礼子委員

※欠席委員：大瀧正子委員・大内修道委員・折腹実己子委員

[事務局]

### ○健康福祉局

船山局長・熊谷地域福祉部長・西山社会課長・柴田総務課長・和泉社会課被災者支援担当課長・須藤保護自立支援課長・菅原障害企画課長・高橋障害者支援課長・白岩高齢企画課長・松本地域包括ケア推進課長

### ○子供未来局

阿部総務課企画調整係長(代理出席)

### ○区役所・総合支所

大石青葉区保健福祉センター管理課長・斎藤太白区保健福祉センター管理課長

[オブザーバー]

○市社会福祉協議会地域福祉課より3名

## 4 次第

(1)開会

(2)会長挨拶

(3)委員紹介

(4)諮問

(5)局長挨拶

(6)議事

①「(仮称)支え合いのまち推進プラン」の策定について

②市民アンケート調査の結果について

③現計画の振り返りとこれまでの取り組みについて

(7)その他

(8)閉会

## 5 内容

### (1)開会

### (2)会長挨拶

- ・阿部重樹会長が挨拶

### (3)委員紹介

- ・庄司健治前委員の後任として新たに就任いただいた、大内修道委員を紹介
- ・臨時委員として新たに就任いただいた、立岡学委員、長岡弘晴委員を紹介
- ・過半数の委員の出席により、定足数を満たしていることを報告

### (4)諮問

- ・船山健康福祉局長から阿部重樹会長へ諮問

### (5)局長挨拶

### (6)議事（阿部会長による進行）

- ・議事録署名人について、庄子清典委員を指名→庄子委員承諾

#### ①「（仮称）支え合いのまち推進プラン」の策定について

- ・資料1により社会課長から説明

<質疑>

なし

#### ②市民アンケート調査の結果について

- ・資料2により社会課長より説明

<質疑>

#### ○庄子委員

この市民のアンケート調査の結果はどのような形で、どのような考え方で計画に反映をされることになるのか。

#### ○阿部会長

今の時点で、事務局で構想していることや考えていることを教えていただければと思う。

#### ○社会課長

概要のところでもご説明してまいりましたが、地域の人々のつながりが希薄化している傾向があるということ、成年後見制度に関しては、ある程度認知はされているものの十分ではないことや制

度を利用するメリットが感じられていないのではないかなどがわかってきている。再犯防止に関しては、ある程度の支援は必要だということは理解されているようではあるが、自身が積極的に支援や協力をしたいという方は限定的だということもわかってきている。やはり地域の福祉を推進していくにあたっては、行政だけではなく、地域の皆様と共に進めていかなければならない部分というのは多いと思う。そのあたりは意識していかなければいけないということが、十分アンケート結果からわかるのではないかと考えている。この結果については、ホームページなどでも公表していきながら、市民からご意見をいただく機会の参考にしたり、またこの審議会の中で、こことこの分析をさらに見てみたいというお声があれば、次回以降資料としてご用意するなど、そういった形で議論の材料、資料としても活用できると考えている。

#### ○庄子委員

中には主観的な事柄と客観的な事柄があると思う。今ご説明をされた分析は、主に客観的な、こう読み取れる分ということがあると思うが、結構主観的な、今こう思っているという意見がだいぶ含まれているように思われるが、その主観的な部分の反映というのはどのように考えていくのか。

#### ○社会課長

自由記述もあり、皆様のご意見が様々入ってきているのは事実である。こういった意見を見ながら、審議会を含めて考えつつも、市民意見を実際にお聞きする機会も設けながら進めていきたいと思っており、来年度のスケジュールにあったような市民フォーラムやパブリックコメントといったところでも、より意見をいただきながら進めていく。客観的、主観的という部分だが、いろいろなご意見があるというのは十分に承知しているが、地域のあり方をまずは市民の皆様にも考えていただくということが大事なので、そういうきっかけになるようなものにしつつ、自分の身になって考えていただく機会になるように、進めていきたい。

#### ○鈴木委員

私から一件だけ、もしかしたら資料の中にあるかもしれないが、対象者の前回調査と今回調査の年齢の偏在みたいなのところがあるものなのか、ないものなのか。かなり様々な部分で関係があると思うが、例えば 3 ページで言えば、前回調査と比べ「互いの家を訪問し何か困ったときに助け合う親しい人がいる」というのはかなりの割合で減っている。そのときに、その対象者の 5 千名の中で回答いただいている年齢構成みたいなものが、前回調査とどう変わっているのかといったところは、確認をされておられるのか。

#### ○社会課長

この報告書の中にはそういった部分での分析は掲載できていない。無作為抽出する際には、人口比も考慮して抽出している。しかし回答率を見てみないと何とも言えない部分もあるため、次回の会議開催までの間に、回答者の属性やどういった割合の変化があるのか等を見られるような資料を準備したい。

#### ○鈴木委員

回答には結構影響があるのかと思ったので、できればそういった資料も出して頂ければありがた

い。よろしくお願ひしたい。

○長岡委員

この母集団の地域の問題、地域のことは全然触れられていないが、例えば更生保護の立場でも、生活保護の申請等についても、地域差みたいなものがあるように聞いたことがある。団地と農村部とか。そういった面で地域差的なもので説明を付け加えることがあればお聞かせいただきたい。特に関係ないといえは関係ないかもしれないが。

○社会課長

属性をお聞きしている中で、例えば 12 ページで居住区についてお聞きしている部分や、それから 13 ページのところ、これは回答者の主観にはよるが、ご自分の地域はどういう地域だと思いますか、というふうにお聞きをしたりしている。世帯数が多い地域だとか、住民層は高齢者が多いとか、それから 14 ページで近所付き合いの状況などもお聞きしている。こういったところと、回答者のその地域への関心度や関わり方などの分析で、もし有意な結果が出れば活用できると思う。そこまでの分析はこの報告書の中にないため、そのあたりを今後分析し、活用できそうな結果が出てきたらご説明したい。

○阿部会長

いま長岡委員がお話しをされた、例えば事務局で挙げた客観的なものでいけば区とか、主観的なものも説明があったが、クロスさせたい項目があれば。それからまた鈴木委員の言われた回答者の年齢構成に前回調査との間でなにかで変化があったのかどうか。ご関心がある質問項目やクロス、あるいはクロスをさせたものをさらに前回調査と比較をしてご提示いただくということ、全ての委員の皆様方に、次回までの間にリクエストを是非お願ひしたいと思う。全部ということになると大変だろうと思うので、これが見てみたいというところを事務局の方にお知らせいただき、それを資料としてお示しいただくということにさせていただきたい。他に今日の時点で、他の質問でも結構ですし、この辺のところを今お話ししたようなクロスをしてみてほしいとリクエストがあったらお願ひしたい。

○長岡委員

今のところに関連すれば、私は泉区に住んでいるが、同じ団地でも高齢化の割合が高い地域がある。若い人は富谷とかそういうとこばかりで、旧団地はものすごく高齢化が進んでいる。その地域性を踏まえた形でのこの人たちの意見、あるいは背景とかそういう部分で、もしあれば次回までにお聞かせいただければと思う。

○阿部会長

今回のアンケート調査に限らないということで、例えば老人福祉専門分科会の方の介護保険系の調査などでもなにか出てきているかもしれないので、事務局の方で幅広くデータ等をお示しいただければと思う。また計画全体を策定していくときに、地域差を当然意識しながら地域福祉計画を、仙台市全体で進めていくという視点はとても大切な視点だと思った。

## ○立岡委員

クロス集計でお願いしたいと思ったのが、4ページの「地域での支え合いの経験」に関して、平成26年度から令和元年度にぐっと経験した人が減っているという部分は、年代でクロス集計をかけてもらいたい。もし後ろにあるのであればそれでいいが。なんでこんなに減ったのかというところを年代で見えていただきたい。またその次の地域活動への参加状況に関しても、若い人が参加してなくて年齢の高い人が実際参加しているのかということなど、図4図5に関しても、年齢で見えていただきたい。というのも私が厚労省の地域共生社会推進検討会に参加させてもらった時に、そこで出た意見として、「65歳以上の元気なシニアの人たちに活躍してもらわないと地域共生社会はできないよね」という意見がかなりの委員から出た。そこからするとどうしても、働いている人はしょうがないよねと言いつつも、今はもうかなり元気な人も働いているという部分もあり、なかなか地域活動をできない人もいるのかなと思いつつも、やっぱりそのあたりを促していかなくちゃいけないところもあるのだろうと思うと、この部分に関しては年齢別でクロスをかけていただきたいと思う。

## ○社会課長

26年度との比較ということでは今手持ちはないが、例えば先ほどの4ページ図3「地域での支え合いの経験」というところでいいますと、報告書の67ページの下の表に、年齢別とのクロスがある。26年度と比較してどうかということにつきましては、次回の宿題とさせていただきます。同じく地域活動への運営・参加経験ということではいいますと、76ページの下段に、例えば運営に携わった、参加しているということで表を横に見ていくと、ぱっと見て分かる部分としては、やはり若い世代はなかなか活動には参加していないという状況については見てとれる。ただやはり前回との比較という点では少し時間をいただきたい。

## ○阿部会長

是非傾向を見てみたいという立岡委員の話しであったので、事務局もよろしくお願いしたい。そのほか何かあるか。またそれぞれの委員からのご質問や要望に答える中で申し上げてしまったが、冒頭事務局からの説明の中で、本日の議事等に関する意見をペーパーでお寄せくださいと話があったので、是非皆様からいろいろのご質問やご要望を出していただきたいということで、とりあえずこの案件を締めさせていただきます。特に調査結果の分析等、非常に厚い部分が本日は時間の関係で説明がなかったが、是非委員の皆さんのご自分の関心のあるところ引き寄せてご覧いただいと私からもお願い申し上げます。

## ③現計画の振り返りとこれまでの取り組みについて

- ・資料3-1、3-2により社会課長より説明

<質疑>

## ○庄子委員

もしかしたら失念をしていたのかもしれないし、前に伺っているのかもしれないが教えていただきたい。この資料3-1の支え合いのまち推進プランの振り返りは、どなたが振り返られたのか。

○社会課長

毎年度の計画の推進状況については、前年度の推進の状況を翌年度の分科会にお諮りしながらご意見をいただいている。例えば30年度の結果については、昨年8月に開催したこちらの分科会で推進状況や取り組み状況をご説明させていただき、意見をいただいたというものである。そういったことを毎年度行っており、この現計画が28年度からの5年間という計画期間になっているため、28年度、29年度、30年度の取り組み状況を、その都度分科会でご審議いただいたものを一枚にまとめてみたというものである。机上に第3期仙台市地域保健福祉計画の評価について、平成30年度から3か年分の評価シートを用意しているが、それを取りまとめてわかりやすくまとめたものが3-1の資料とご理解いただければと思う。

○庄子委員

分科会の理解ということか。

○社会課長

計画の推進状況について、こちらの分科会で振り返っていただいたというものである。

○鈴木委員

今振り返りの状況をご報告いただいたが、やはり課題となることや、取り組んできた成果はありつつ、課題として残っている部分については継続してあるということだろうと思っている。これと先ほどの福祉に関するアンケート調査結果を一緒に、同じ会議の中でご報告をいただくと、やっているんだけどなかなか…という現実が本当に目の前に突き付けられるなあという印象がある。そうすると何を考えるのかというと、計画に、さらにもう少し具体性を持たせた形で計画づくりをしていかないと通り一遍のものになってしまい、次回以降アンケートをやったときに、どういうふうなことになるのかという想像をすると、われわれはもう少し具体的な形での計画づくり、それが事業レベルなのかというところはこれからの議論になると思うが、そういうものはやっぱり必要なのかと感じた。

あと一つこの中で、担い手の確保というのは非常に大きな課題で、例えば地域活動の段階になってその時に担い手を探しましょうというのはきっと無理だと思う。そのときに担い手になる人材をどう育てていくのかという視点で考えていかないと。そのために言葉は通り一遍だが、例えば子ども頃の福祉教育や、ボランティア体験の機会を広げるとか、勤めていच्छるときには、例えば企業の社会貢献の中で活動いただくとか。そういう延長線上に、初めて落ち着かれるとき、先ほど立岡委員からの話しがあったように60歳とか65歳になられたときに、地域活動に目が向くとか、そういうふうにある程度長いスパンをもって考えていかなければダメな視点というのも多くあるような気がしており、そういうところをにらんだ計画づくりというのも必要なのかという印象を受けた。

○阿部会長

おそらく、本日の事務局の説明に具体的にということではなく、これから私たちがほぼ一年かけて作る計画の中に今のような視点を、鈴木委員も例えばということで、具体的な事業の中に落とし込むのかどうかということとは別として、とっていただいたので、計画の中に、例えば今最後の

方で言われたことでいうと、少し長い時間軸のなかで担い手の育成ということが大切だといった書き込みなどを、そしてまた可能であればそれを具体的な事業の中になにか落とし込めれば、目玉の一つにさらになるような気がするが、そういう視点として受け止めさせていただくということによるしいか。

今のような指摘でも構わないので、具体的にこのところの書き込まれているところについてお聞きしたいとかではなく、説明を聞いてこういう視点で次の計画に臨む必要があるのではないかというようなご提案でも結構である。

#### ○小岩委員

アンケートやグループインタビュー、ヒアリングの結果を見ていた時に、資料 3-2 の 4 の②や③、何でも相談できる場所がない、何の相談でも受けられるような場所が身近にあったらいいなというのは私もずっと感じていた。今、子どものことも教育ということも含めて出ていたが、切れ目のない支援といったときに、どうしても三歳くらいまでの健診は行政が行えるが、その後の保育所や幼稚園に行ったときに行政の手から離れてしまうこともあり、その連携が必要。さらに幼稚園や保育所から学校にいったときのつながりとかも、やっぱり連携がないとできない。小学校から中学校に上がる時、今学校でもいろいろやっているが、全体的に行政とか専門機関とか地域の活動をしている人とかをつなげるものが一つあって、そこに相談機関みたいなものがあればいいなとずっと思っている。この厚労省の資料にも、断らない相談機関や支援とかをつなげた一貫した事業を行うべきだと書いてあるが、ようやく出てきたなと思った。そういうことを盛り込んで、この地域保健福祉計画を作らないとだめかなと思う。

また資料 3-1 にあったが、防災リーダー SBL さんや CSW さんなど、仙台ではいっぱいリーダーなる人を養成しようとして一生懸命やっていると思う。それを今度は形にするようなものとして、実際に地域の中で、どういうふうに活動して行ったらいいのだろうというのを打ち立てていかないともったいないかなと思う。SBL さんたちも「受けたけど地域に戻ったときに何すればいいの」と皆さん言っている。小学校とか地域とかの防災訓練の時に出てきたりはするが、日常のところでもその人たちの活躍の場というのがあるのではと思う。CSW さんも地域のところに、例えばうちみたいな NPO にも連絡をよこしたりしながら、こういう子どもやこういう家庭があるが、ちょっと相談しながらやっていきたいと思いますなことを言ってきてはいる。ただ具体的にどういうふうにしていくかというのがまだまだ形になっていないので、是非そういうことも取り入れながらの支え合いのまちを仙台からつくれたらいいと思う。

#### ○社会課長

小岩委員が言われたように、まさに切れ目のない支援を、また断らない相談というところは課題であるし、これからの方向性としてやはり仙台市としても考えていかなければならない大きな課題である。一方で、今の組織、市の規模もある程度大きいということもあり、組織は組織としてなければならない部分もあるため、どのように庁舎の中でもつなげていくかといった部分も大事である。地域の方にとっては、いろんな分野のお話があるにしても、地域の方という意味では同じなので、そういったところからのご相談について、きちんと受け止める仕組みというのは考えていく必要があるかと思っている。この計画を策定していくにもあたって、策定したからすぐ実現するという

ことではないかもしれないが、こういう方向性にいくということを明記できるようなものになっていけばいいと思うので、その点について委員の皆様からもいろいろとご意見をいただきながら検討を進めていきたいと思っている。

#### ○阿部会長

どれほどすぐに今策定に入ろうとしている計画の中に落とし込めるかどうかは難しいところもある、という回答の趣旨だったと思う。とはいえ一方で、鈴木委員のご発言と同様に、この新しく策定される計画のプロセスの中で、切れ目のないというのか、その視点を大切にして計画を作っていきますよということ。それから人材はまあまあ積極的に養成されてきてはいるが、活躍する場が用意されているんだろうかという視点も大切にしていきましょうということ。さらに可能であれば、実際どうなっているのかということも、事務局に負担をかけるが、全ての養成している専門職とかでなくて結構なので、何かサンプルで一例として、実際になかなか活躍する場がこういう形でできていないとか。あるいは具体的にご発言にあった子どもの子育て系で、実際に制度やサービスとしては切れ目がないが、利用者にとってみると年齢とかによって、次のサービスがなかなかすぐ見つからないとか、気づかないとかという意味での切れ目がみえてしまっているということなのだろうか、そういうことが実際どうなのかというサンプルや一つ事例などのご検討していただければと思う。

#### ○立岡委員

今回、市民アンケート、グループインタビュー、ヒアリング結果のまとめというのを先ほど説明していただいた。これを見ていくと福祉という領域だけの話ではもう完全になく、まちづくりの話になっているなというふうに思っている。奥山前市長のときには市民と市民が協働していく中で創発をさせていくような事業展開が必要だというようなことで進んでいったと思っているが、まさにいま横浜市で、たぶん共創という考え方で実際に「リビングラボ」という形で、多様な主体が集まった形の中において地域の社会課題を一緒になって解決していきましょう、うまくいくかいかないかはわからないけど、とりあえずやってみましょうという取り組みがかなり進んでいる。そのあたりを仙台市としても、きちんと先駆的にやっているところを学ぶ必要もあるのではないかな。この中にプラットフォームをつくっていききたいとか、結局そういう要素が盛り込まれている意見がいっぱいあったので、そういった意味で、まさにリビングラボをつくっていくんだといった形のを地域福祉の計画にも盛り込んでいく必要があるだろう。これも実際に5年間くらいの計画になるのだろうが、それがたぶん5年後は当たり前前の発想、考えになっているのではないかな。例えばSDGsも、3年前は誰も知らなかったが、今だったら当たり前前に知っていて、みんなバッチまで付けているというように、もう時代が早いので、一定程度広まるときにはぐっと広まっていくのだろうと思うと、やはり先を見据えた形でのプランというものは必要なのかなと思う。実はわたしは男女共同参画の委員もしており、村山先生もそうですが、そこで5年前に策定したプランを見ると、今だったらスマホが当たり前、SNSが当たり前という感じなのに、5年前は全くそういう言葉が書いていない。だから周知を徹底しますというふうに言っても、SNSでどういうふうに周知していくかというように時代が変わっていているということを見据えて、5年先、読めない部分はたくさんあるが、今の考えられることを盛り込んでいく必要があるのかなと思った。



## ○社会課長

今の話しをお聞きして思ったのが、地域での取り組みは長岡委員からもありましたが、いろいろな地域がある中で、同じ取り組みを同じ速度で進めていくということはかなり難しいのではないかと考えている。そのために先駆的というか、いい取り組みがあるところには是非進めていただけるような仕組みとか支援をしながら、またそれを皆さんに発信していき、こういうことだったらまねできるかも、というような形で、できることから取り組んでいくという地域が少しでも増えていく、そういう形が望ましいかなと考えている。そういう取り組みが、チャレンジできるような仕組みが大事かなと考えている。

## ○立岡委員

お願いというか、可能なのかどうかかわからないが、仙台は市民社会を構成しているとか市民の力を活用していくというのが、歴史的にもそういう方向できて、いろいろ紆余曲折はあったかもしれないが一応これまでそういうふうにくたなとすごく思っている。これをぱっとみたときに、これは福祉だけじゃなくて本当は市民局サイドも考えなきゃいけないところなのかなと思うと、市民協働推進課あたりもここに出席してもらったり、あと今すごく思うのが住宅政策の部分で、高齢者の方の住まいの問題というのが多く寄せられている中で、住宅政策課などをこの部分に関してはきちんと関与をしていく必要があるのではないかと考えたので一言言わせていただいた。可能であればということで。

## ○社会課長

ご意見の通り、地域づくりという観点で見れば、福祉だけではなく、たくさんの部局にまたがる分野も入ってくる。全員をここに一同に、というのはかなり難しいとは思いますが、そういったご意見や審議の経過については庁内で情報共有しながら、きちんとそれをさらにフィードバックできるような形で進めていきたいと思う。

## ○渡邊礼子委員

さきほど立岡委員からもお話しがあったが、今現在のサービスが5年後どうなっているかというお話しで、今まさに、地域共生と多様性という言葉が福祉の中でもすごく多くなってきているが、やはり障害者と障害をもたない人たちと、どういうふうに多様性、または共生をして地域をつくっていくかというところが、ものすごくこれから大事な部分になっていくと思う。もちろん外国人も来るし障害の方もいる、その人たちが当たり前で生活できる、そんな福祉計画でなければならないと思う。先ほどの鈴木委員の意見もまったく同感なので、そのあたりもこれから計画策定に向けて考えていく必要があると思う。

それからもう一つ、ちょっと前に戻るが、先ほどのアンケートの中で無回答という方がいらっしゃるが、どうして無回答なのかというところにすごく疑問を感じている。設問をずっと読んでいたら、まさしくこういうものに対しては無回答と答えるところもあるが、そうでない部分で無回答としているのは、市民にとってこの無回答とは何なのだろうとすごく感じたので、もしその部分で何かわかるものがあれば次回までお願いしたいと思う。

○阿部会長

一件目は総合的なご要望やご意見で、二件目は次回までもしわかればという条件付きでのご質問だが、事務局で無回答の解釈について、いくつかの解釈がありえるかと思うがいかがか。

○社会課長

もしかすると、ある人が全部に対して無回答とかそういうことがあるかもしれないが、その辺を確認させていただいて、わかれば次回回答したい。

○庄子委員

意見であるが、まったく違うもの、パラダイムシフトというのかそういうものにもっていかなくちゃ支えきれないということがたぶん分かり、こうやって計画策定していくのだと思うが、こういう場合は往々にして、何か新しい考えだから、新しい組織や新しい機関を作って、ということが増えることもあるかと思う。その必要性もどこかにあると思うが、やっぱりこれまで別なことでやってきた機関や委員会のような、例えば仙台市老協などの高齢者団体が、仙台市の介護保険課が主管になって、介護人材の確保のための実行委員会というのを作り、離職防止や介護人材の創出などの動きをしている。これは主にそういう事業所のためのものとして今動いているが、同じそういう人を、介護員を育てたり、あるいは高齢者の元気な方が介護をしたりということも合わせて考えられれば、そこでできるわけだし、あるいは障害者の方やその他についても、福祉に関わる人の人材の実行委員会というふうに移っていくことが可能で、活用ができると思う。これまで、例えば立岡委員のところでは生活困窮の認定就労を、ずっと重要なこととしてやってこられて、まさに今後重要な役割を担っていくときに、これまでの形にプラスアルファやもっと発展させていく形で、この地域共生社会の取り組みに関わっていただくなど、これまで既存にあるものをどう活かしていくか。そういう意味では教育委員会などもとっても重要な役割を働かれるであろうから、新しくつくらなくちゃいけない組織や機関も出てくるが、考え方としては既存の、一見関わってないように見えるものもフル活用して考えさせていくってことが重要なかなということの意見を申し上げる。

○阿部会長

先ほど市民協働推進とか市民局とか、小岩委員に言われたことに引き寄せると教育委員会とか、同様のことだろうと思いますので、庁舎内でぜひ理解の共有をよろしくお願ひしたいと思う。

○立岡委員

今本当に庄子委員がお話しされた通り、再犯防止が今回計画に入るが、普段日常で、地域でやっていることが視点を変えると、これって再犯防止にもつながってくるというものもたくさんあるので、そういったところを掘り起こすということはすごく大事だと思う。既存の団体がいろんな活動をしていてそれが再犯防止につながっているところはずごくあると思っているので、そういう形でいろいろ集約すべきなのかなと思う。

またこれは私が教えてもらいたいことだが、今回再犯防止推進計画の枠組みを一緒に組み立てていくという中で、今回のアンケート結果でいうと、意外と仙台市の方は優しいのか、それとも聞き方の問題だったのかというのはあるが、本当はあんまりそういった罪を犯した人たちと関わりたくないよというのが一般的だと思う。なんでこんな罪を犯した人たちに税金をいっぱい使うんだとい

ったような議論はあると思う。再犯防止や、いわゆる罪を犯した人たちを支援する前に、一番にやらなければいけない部分というのは、被害にあった人たちに対する支援だと思う。被害にあった人たちの支援をきちんとやっているからこそ、安全安心のまちをつくるために、そういった再犯とかを犯さないまちつくるんだという形になると思うが、仙台市の被害者支援について全然わからないため、どういった取り組みがされているのか、所管はどこなのかなど教えていただきたい。

#### ○社会課長

被害者支援というところの相談窓口は市民局の市民生活課で所管していたと記憶している。具体的な取り組みについては、申し訳ないが今資料を持ち合わせていない。やはり今回再犯防止と一緒に、一体として策定することについては、地域での安全安心という部分をいかに地域の方にも理解していただくかということも大事だと思う。市民局の取り組み、またその被害者支援というところへの取り組みということを大切にしながら、また地域の安全安心を、さらには被害者を出さないとか、そういったことが起きないような世の中をつくっていく、というところを、きちんと位置付けていく必要があると思っている。

#### ○立岡委員

是非とも、被害者のところをきちんと書き込まないと「なんでなの」というところがたぶん出てくるだろうと思うので、お願いできればと思う。

#### ○阿部会長

今、仙台市の場合の被害者支援、あるいは事務局の回答では窓口の一例が示されたが、長岡委員の方から補足等あるか。

#### ○長岡委員

今のことに関連して、参考になるかどうか、ちょっと申し上げたいことがある。被害者支援については、まず私ども保護司は法務省の保護観察所というところが監督部門になる。その観察所でも被害者相談窓口をつくっている。ただし気を付けていただきたいのが、被害者といっても事件によって、例えば強制性交罪などの問題については被害者支援というのは、もはや犯罪者に対してどうのこうのではなく、被害者への精神的なフォローアップが先で、むしろそういう人たちは関わりたくないという気持ちがいっぱいなので、犯罪の内容によって対応が変わってくるということ。さらに今問題になっているのは、例えば殺人事件なんていうのは高齢者が非常に多いし、ご承知のように昨日一昨日もあったように、悲観して妻を殺したり親が息子を殺したりといった尊属殺人である。ということは家族がみな被害者なので、加害者家族支援という新しい概念がでてきて、そちらの方が大変悲惨である。特に年頃の子供たちを抱えた親の性犯罪とかはもう地域にいられない、子どもはもう不登校になる。そういうことを含めての総合的なメンタル支援、対応が大事になってきている。

それから関連してもう一つだけ、視点を変えて言えば、いま民生委員でも保護司でも、なり手不足と言われている。それはなぜかということ、非常に環境が変わってきており、昭和40年度あたりはまさにそういう仕事をすれば、会社からも地域からもそれなりに高く評価されていたが、今は雇用側も働き手も余裕はない。そんなことする暇があったら仕事をしろと。それからもう一つ、大きな

変化というのが、60歳を過ぎて、だいたい悠々自適というのが私たちの親の世代だが、今65歳で年金だけでは暮らしていけない。そうすると何を考えるかということ、ちょうど中堅、55歳から第二ステージを、次私はどんな仕事を、この職場で残るのか、別の仕事を探すのかなどを考える。そうするとボランティアどころの騒ぎでない。そういう状況を踏まえながらボランティアの育成や担い手を考えないと、町内会も民生委員もなり手がいないのは当然の話である。もうこれからの時代は目の前の生活が大事。そういうことなので一つ加えていただきたいのは、地域の活動、地域というともう一つある、自営業の方々。ああいう方は一生懸命やっている。例えば青年会議所とか地域の商工会などの人たちが、地域のボランティアの担い手の育成をどう考えているのか。こういう条件だったら協力するとか、こういうことはできないとか。私が実際に罪を犯した人たちの就労支援でいろいろお願いをしてきて、大きなスタンドとかいろいろあったが、ある一つの壁にぶつかった。それはなぜかということ、地元の経営している事業所側はいいというのが、宮城県とか支店本店関係だとダメになる。現場の営業所では「いいですよ。ただし内緒にしてください」とか。だから経営者とか企業家でこういう問題についてどう考えているのか。本来ならば、地域の問題は自分の商売に当然関わってくるが、目の前の競争が厳しい。そういうことを踏まえた意向調査とか、それを意識しながらやっていかないとなかなか難しいかなということでもひとつよろしくお願ひしたい。

#### ○阿部会長

多岐にわたってご発言いただいた。まず一つは立岡委員と同じように、罪を犯した方が社会復帰されてきたあとの支援を今回の計画に一体で盛り込むというところで、おそらく被害者支援、それから今お話しにあった、新しい意味での加害者支援への配慮を十分して、計画の書き込みをしていかないと、なかなか受け入れてもらえないのではないかというご発言と受け止めた。

それから今まで出てきていた中で、地域福祉、支え合いを進める上での担い手をどのように確保するかと。例えば町内会役員など、その点をもう少し踏み込んだ形で議論していく必要があるのではないかということ。関連して、アンケートの中の、活動に参加しやすくなる取り組みという問いでは、「活動する曜日や時間が自分の生活にあっていること」と一番多く答えられているが、今の長岡委員のご発言では、これに合っている人として、自営業者とか青年会議所の役員とか、積極的に関わる人という一サンプルが出された。そのような、合っている人から担い手を探していくというようなこともありえるのだなとヒントをいただいた。この辺のところを、担い手に関わる書き込みをするところで、少し展開の仕方があるようなご提案、ご発言だったというふうに行進役としては受け止めさせていただいたが、事務局の方で、その他の受け止め方がありましたらご紹介いただきたい。

#### ○社会課長

まさに会長が言っていたような形で、私どももその視点として、今いただいたご意見を大切にしながら検討を進めていきたいと思っている。資料2の報告書の5ページ、いま会長からご紹介があった、どういう仕組み、取り組みがあれば参加しやすくなるのかと聞いたところで、やはり自分のライフスタイルにあっていると自由に参加できるとかそういったところをおっしゃる方も多く、まず参加意欲を持っている方にどうやったら参加してもらえるのかということと、加えて参加意欲自体を持ってもらうにはどうしたらいいのかということと、分けて考えることが必要かなと

思っている。

○阿部会長

いずれにせよこの辺を書き込んだところで、それぞれご質問とかご発言いただいた委員からさらに、今日の時点で強くご発言をいただいていますから、該当する計画案の文案が出てきたところでその文案を見ていただき、こういう書き込みが必要でないか等々のご意見をいただくということで引き取らせていただければと思う。

○小岩委員

再犯防止の関係で、少年院を出た子たちが地域におり、今もちょっと関わらせてもらっているが、とても難しい。その子だけの問題じゃなくて、家庭、加害者も被害者も、その周りの家庭支援というのがとても大切だと思っているが、この再犯防止に関して、仙台市内でどのくらい少年院にいった子がいるのかというのも正直わからない。うちの地域の子どものことはわかるが、その辺のデータなどを、5月の第一回分科会の時とかに出してもらいたい。どう考えたらいいかわからないというのが正直なところ。成年後見の関係は資料もあるし、だいたいわかるが、この再犯防止に関してはちょっとどう考えたらいいか、最初からわからないと思った。今日長岡委員のお話を聞いたりして、さらにやっぱり家庭支援とかそういうことを考えると、ここの支え合いのところに入れ込むのはすごく難しいと思ったので、資料や参考になるようなものをいただけたらと思う。

○阿部会長

さきほどのスケジュール案で、新年度 2 回ほど今の案件が当分科会での審議事項になるということであったが、資料をできるだけほしいという要望について、事務局いかがか。

○社会課長

そういった資料を関係機関の方から集めたい。ちょうど昨日、再犯防止推進計画策定に向けた協議会が保護観察所主催で開催された。そちらにも東北少年院の方や他の矯正機関の方もいらしているので、そういった方に情報提供をお願いしながら、どういったものが出せるのか、もしかすると仙台市内という切り分けができるかどうかはちょっとわからない部分もあるが、どういう資料がご提供できるかを含めて相談しながら、次回の 5 月の分科会のときには参考資料や、これまでの再犯防止に関しての協議会での検討してきた経過や報告の内容、それから成年後見に関しても、今年度検討している部分のご報告をさせていただいて、またご審議いただきたいと考えている。

○庄子委員

実は私どもの高齢者の団体に宮城刑務所の方がお越しになって、再犯をする方たちの現状の説明及びなんらかの協力というようなお話しがあった。そのとき、十分に覚えていないが、圧倒的に再犯をする方は高齢者が多いと。いわゆるこちらの世界で苦しくなって、また楽な世界へ戻らざるをえなくなっている人たちが多いという話しを伺った。その話しを、もし可能ならば皆さん一度お聞きになられる機会があるといいのかと思い、お話し申し上げた。

○阿部会長

ご提案ということで、実現可能かどうかわかりませんが、可能性少し見つけていただければと思う。また私からも、たぶん新年度も行われるのではないかと思うが、少年院を半日かけて見学、実習したり、また触法少年の社会復帰に向けて、いま庄子委員が言われたような講話、講義をいただけるプログラムが東北少年院さんで行なわれていた。過去5、6年前に、2年か3年参加させていただいて、あと行かなくなってしまったのでちょっとあやしいが。もしそういうのが新年度も東北少年院さんで企画されているようでしたら、当分科会に情報提供をいただければ、委員の皆さままでご関心がある方はご参加いただければと思う。この分科会にそれほど負担にならない形で、そういうこともあってもよろしいかなと思う。もしお調べいただけるようでしたらよろしく願いたい。

○社会課長

情報を集め、ご提供させていただきたい。

○阿部会長

それではだいぶ時間も過ぎてきたため、次第の議事については以上で締めさせていただきたいと思う。なおその他に、アンケートに関わらない事でも、あとで思い返してみてもこういうところを提案しておきたかった、意見として述べておきたかった、あるいは質問をしておきたいということがありましたら、さきほどからご紹介しております質問用紙にお書きいただき、ご提出をお願いしたい。

(7)その他

・なし

(8)閉会